

2005年10月11日

神奈川県教育委員会
教育長 引地孝一様

現地性化学合成貝類化石群の天然記念物指定について（要望）

NPO 法人 神奈川県自然保護協会
理事長 新堀豊彦

横浜市栄区瀬上沢の上総層群から発見された約160万年前のツキガイモドキ類の密集する現地性化学合成貝化石群集は、冷湧水性、且つ浅海性であることで、県土誕生の歴史をひもとき日本列島の構造解明に繋がる貴重なものとして、その現状保存が重要な使命と存じます。

1995年に金沢区大道で横浜市の文化財指定を受けた亜深海性貝類化石群集は、生息地から移動をこうむり掃き寄せられ堆積したと推定されております。これも貴重な資料ではありますが、瀬上沢の貝化石群集はツキガイモドキ類の貝化石が9m X 9mの鏡餅状の岩塊で露出しています。これは現地性つまり生息していた状態のまま化石化したものであることが、水平と垂直の地質ボーリング調査によって明らかとなり、さらに冷湧水性化学合成の背景の化学分析も進められています。その研究成果はこれまでに他の地域で産出した化学合成貝化石群集によって得られた知見を遙かに超え、国内のみならず海外の研究者から注目されています。この化石群集は現在も研究が進められておりますが、一方でこの路頭全体が埋められる開発計画が浮上していると聞き及んでおります。

私どもはこの掛け替えのない郷土の知的財産の損壊を懸念し、文化財保護法の仮指定適用も想定した緊急の対応をお願いします。